

○議長（初村 久藏君） 17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 分かりました。ぜひ調査をして、漁協にそのデータを流して、漁協によく言ってもらわないかんののは、漁業者にそれをしっかり伝えろよというふうにしておかないと、漁協のデスクの中に入ったまんまのとがある。何の有効利用もされていない。やはり、これからこの資源を荒らさないで取るという方法は、絶対魚礁が有効になってくると、私は思っていますので、ぜひ市のほうからも漁協のほうにそういう体制づくりをするように、指導をしていただきたいと思います。

また、フロンティア魚礁の話を市長が今されましたが、確かにフロンティア魚礁は今から有効な手立てになってくると思います。これは結構沖合ですけども、アジとかサバとか小魚がつくところには大魚も来るんですよ。だから、絶対そこでは漁ができるというふうに確信をしておりますので、これからしっかり対馬の水産を支えていくためには、魚礁の有効活用、これをぜひ市のほうも漁協のほうにしっかりと伝えていただきたいなというふうに思います。

ありがとうございました。これで質問は終わりますけれども、先月だったかな、令和3年ながさき水産業大賞を対馬市の経営体、3つの経営体が独占して知事から表彰状をいただいておりますね。上対馬の築城慎一さん兄弟、木坂の申崎さん、それから水崎の延縄船団、こういった人たちが県知事賞をいただいて帰ってきておられます。

ぜひ、お祝いを申し上げますとともに、これからの水産業の柱として頑張ってくださいように、私のほうからお願いを申し上げて、質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） これで、新政会の会派代表質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開は11時20分からとします。

午前11時06分休憩

午前11時20分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、会派代表質問を行います。

対政会、16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆さん、おはようございます。

16番、対政会の大浦孝司でございます。

対馬の将来の水産業について、このテーマで会派代表質問を行います。

また、関連質問として、小島徳重議員が後に行うことになっております。どうぞよろしく願いいたします。

私は、昨年、第4回定例会において、類似した質問をいたしました。そのときは、一方的な私の意見に終わったような気がいたします。今回は市長の直接的な発言を伺いたいと思っております。

令和2年度の資料による漁業従事者数は、約3,900人のうち、70歳が約40%、60歳から69歳が30%を占めております。これが15年を経過すればおおむね従事者の総数は1,200人程度と、これを上回る程度のもので数字が見込まれます。これは75歳までの沖合の操業ができる年齢、そこらを考慮した数字の出し方となりますので、80歳の方やおりますが、港から僅かな距離で操業することにおいては、高齢者でも可能でありますけれども、沖合での操業を基本とした場合には、これが75歳、このような判断の下に数字を作成しております。

これは、対馬の産業構成において、大問題だと、私は思っております。まさか水産業に取り組む方々が3分の1しか残らないと、この先、このようなことが現実に見込まれます。

そして、また担い手対策も成果は上がっていないようであります。

このような中で、新しい漁業の方向性について、市長に尋ねます。全島の組合長会、または県・市の行政指導において、この問題の具体的な策は何か考えているのか、お尋ねをいたします。

また、一本釣り漁業と並行し、県知事による中型まき網漁業の将来的な導入について、どのように思われるか、市長の意見を賜りたいと思います。

次に、島内の水産加工工場が複数ある中、地元の魚の仕入れがスムーズにできないようであります。

漁業関係者は、島外市場の系統出荷を基本としていると思われませんが、これを一転し、島内加工業者にも供給できる、アジ、サバを中心とした荷さばき所もしくは、小型市場を将来設立する、これを進め加工産業の施設の拡大により、多くの雇用が発生すると思われませんが、このことについて市長の御意見を伺いたいと思います。

昨日、産業建設常任委員会の委員長報告の中で、全島の水産加工事業所を2か所回り、その現場を視察しました。この中で非常に魚の仕入れができにくい、それで事業が伸びておらない。この現実の御意見を直接、委員会は聞いております。

この場で、将来の構想について、市長がこの問題について、どのように思われるか、このことをしっかり今日は議論してみたい、このように思っております。どうかよろしく願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対政会、大浦議員の質問にお答えいたします。

対馬市の基幹産業であります水産業の現状としまして、海洋環境の変化に伴う漁獲資源の減少に加え、漁業者の高齢化、後継者不足が課題となっております。

令和3年4月現在、漁協組合員数は3,721人であり、そのうち60歳以上が約70%を超えることから、今後10年から20年のうちに、漁業者は半減する見通しが強く、非常に厳しい状況に直面しております。

このままでは、対馬の食を支える水産業の安定供給にも影響を及ぼすことが懸念されることから、後継者対策は喫緊の課題と捉えております。

このため、新規就業推進対策として、平成15年度より長崎県の補助事業を活用し、漁業就業実践研修を実施しながら、合計71人の就業につながっており、そのPRについても、対馬市ホームページ、ケーブルテレビ、就業フェア等を通じて情報発信に努めております。

また、高齢者や女性に優しい住みよい漁村づくりの一環として、漁港整備事業において、防風柵の整備や浮き桟橋等の整備を実施しており、安全で軽労化につながる就労環境改善に取り組むことで、1年でも長く漁業に従事していただけるよう、事業を推進しているところであります。

1点目の中型まき網の将来的な導入についてでございますけども、現状といたしまして、対馬近海では、本土から多くのまき網船団や沖合底引き船団が操業しており、資源保護、安全操業の確保及び操業秩序の観点から、一定範囲内における操業自粛期間の設定等について、対馬市漁業協同組合長会と島外漁業者が相互理解の上、自主的に協定を結んでおります。

このような中、市内には2か統の中型まき網事業者が存在しますが、その他の地元漁業者から、まき網導入への意向は現時点ではないものと認識しております。

対馬市といたしまして、まき網漁業への参入を促すことは、沿岸漁業者との操業調整等の観点からも、協議、調整すべき事項が多いものと考えますが、参入予定事業者の意向があり、地元調整が可能な体制づくりが構築できれば、市としても支援策について検討してまいります。

2点目の島内加工業者への原料安定供給に向けた、市場の開設についてであります。議員御指摘のとおり、安定した原料調達のためには、市場機能を有した流通調整組織が必要であると考えますが、この市場の開設には、漁獲に対して通年安定した需要が見込まれることが前提であり、併せて市外へ出荷している漁獲物と同等の単価が補償できないと、漁協や漁業者の協力は得られないものと思われまます。

過去には、厳原町漁協前に市場機能を有した施設が開設されておりましたが、需要・供給バランスの不均衡や価格面等、生産者へのメリットが少なく、市場としての機能を維持できなかった事例もございます。

このため、対馬市としましても、現状のままでは水産業の衰退につながる危機感を持っており、多くの雇用を創出する可能性のある加工業やまき網漁業の推進は、有効策となり得る可能性があることから、地元動向を注視しながら、漁協組合長会や長崎県との連携を図りつつ、持続性のある水産業の振興のために尽力してまいりたいと考えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 市長の答弁の中で、ちょっと確認したいんですが、60を超えた方が7割おると、その方々が、15年すれば、体もしっかり、75歳を基本とした場合には、恐らくこの後継対策がうまくいったらんというふうなことを、私、今回十分身にしみて感じたわけです。

市長の答弁の中で、かなり激減、激減じゃなくて、半数以下になる、7割を超えて漁民の操業者が減る、これを今の段階で、意識したらいいなと思う。

そこら辺りのことが、見越して、組合長会もしくは県、市の先を見た考え方が何かありますかということを探ねておるわけです。

それで、今の答弁の中には、そのことが全く入っておりませんでした。それも無理もないと思うんです。

先般、対馬振興局のほうに出向いて、いろいろお話を聞きましたが、やはりおっしゃるとおり、今までのことを前に進めるということが、精いっぱいということでありましたから、特に、何かということをおっしゃっていただきましたが、市長もそうでありました。

私、もう少し考えていかないかんとすることは、市役所から頂いた資料、これ後継者を育成する施策、さっき言いました、市長が。

18年間かかって、この資料では68名の数字が担当から頂きました。このことをよくよく考えますと、漁民の経営者は自分の息子を、漁業をさせることを思っておらんというふうなことが、私、背景にあると見ます。それが現実ではないかと、そのところを言うちゃいかんけども、その数字が現れておるようにします。

20年間の間に新しい、そういう呼び込みの中で、100人に満たないということですから、これは今の漁業体系の中からいけば、全部が全部じゃありませんが、一般的な思いは、後継者として、自分の子供を船に乗せて、お前、漁業やれというようなことになっておらんとじゃなかろうかと、私はその思いをしています。市長、そこをどう捉えていますか。

私の思いはそういうふうに、この数字から言えば、これはあかんというふうな気がするんです。このまま行っちゃいかんと。ちょっとその辺、差がありそうですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、議員おっしゃられるように、これまで後継者対策として、いろいろな事業に、県とともに取り組んでまいったところでもありますけれども、顕著な効果はなかなか現れてないということでもあります。私自身も考えるのが、やはり後継者対策につきまして、これまで対馬の中で、資源が多かったときには、かなりの後継者も出てきていたということであ

りますけれども、今、資源がかなり少なくなってきた、厳しくなってきたというようなこともありますので、この辺の資源を増やすことも、一緒になって考えながら、漁業後継者対策を考えていくことが重要ではないかなと、私自身思っております。

そういうことで、先ほど新政会の質問の中にもありましたように、今後この漁業資源を増やすための対策も一緒になって進めていくことが、漁業者の激減に対する対策になり得るのではないかと、私自身考えております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 全部が全部衰退するというようなことではなく、中には比較的安定している業種は、聞き取りですが、高浜漁港の延縄船団の壱岐寄りの七里ヶ曾根の操業、上対馬漁港のアマダイ、延縄、上県、上対馬、巖原、佐須沖のアカムツの延縄、アナゴカゴ44船団、定置網、大型13、小型22、合計35。クロマグロ養殖、免許33の中の11万4,000尾、それから、この辺については非常に対馬の沿岸漁業の中でも、収入が安定して、将来の、将来といいますか、収益が上がって、いろいろほかの業種よりはましであるということと捉えておりますが、それ以外で、イカ漁の不漁、あるいは燃油の高騰、これは発電機をたくとということでございます。ヨコワの規制、もろもろこのような中の、現状の中で、私は、先ほど言いますように、7割の方が近い将来、健全な形で沖合に操業ができにくくなるということ、肝に銘じたほうがいいんじゃないかと、その中でどうするかということ、考えないかん時代が今からである、今である、かように思います。

時間がございませんから、このことは、先に進めたいと思います。

先ほど、産業建設常任委員会の事業所の調査をしたわけですが、この2か所の中で、非常に魚の仕入れが困っておられる姿を見ました。そして、現実の話も聞きました。

このことについて、ちょっと触れてみたいと思うんです。

まき網の件は、市長の答弁で結構だと思うんです。ただ、現状で2事業者がやっておられる中で、加工魚種のアジ、サバ、これが今回の事業者の仕入れに、できれば今からの中で、話し合いを進めていかれるだろうかというふうなことが、今回の会派代表質問の狙いでございます。

ちょっと話を聞いてほしいんですが、まず最初に、比田勝港、泉のジャパンシーフーズ、ここに参りました。この会社は35年を経過したアジとサバを中心とした、そういうふうな販売事業を全国に展開し、6か所に営業所を開設しているというような説明資料を見ております。

それから、この事業者は資本金の1億円、作業員が全体で200名おられます。そのうち対馬の工場が44名が作業されておりました。特に上県、上対馬、この若い方々が取り組んでおられました。

そして、年商、売上げが38億円の会社全体の中で、対馬工場が約20%のシェアである、か

ようであります。

そのような中で、仕入れの現状は、本土から購入したものを対馬に運んで来て、また出すと、非常に流通の中で一番マイナスの面が生じております。ここのとこなんです。この会社については、

長崎沖で捕れたアジ、サバを食用の刺身に、加工に行っている水産メーカー、全国の量販店に納品すると、このような話の説明。

対馬工場で「うまかあじたたき」、令和元年度むらおこし特産品コンテストで経済産業大臣賞を受賞、このあじたたきが売上高のアジフィレ7割を占めておるということであります。

問題は、長崎沖という言葉が五島、佐世保、長崎、そして隣の唐津、福岡魚市、この箇所から市場購入されているという説明でありました。ちょっと電話で聞いたんですが、どういうふうな確保された状況かといえば、大中小のまき網、これは小型まき網だけじゃなくて、大中小、結局まき網で捕った魚を市場で買いますということであります。

ですから、ここが一つの問題で、1日当たり700箱ぐらいを確保しとるそうです、14トン購入、これは会社全体で。

ここらにおいて、どうしても対馬のアジやサバが、将来的に確保できれば、今の44人の工場が100人を超えるような思いでやりたいという説明でございました。このことを、私は、比田勝市長にぜひ話だけは一応聞いて、そして双方の意見を聞いて、折り合いがどうつけられるか、この辺にひとつ頑張ってもらいたいと思って、今日は質問しています。

今までのことは別、今からどうするかという中で、前に春田委員長がおりますが、やはり私本当、久しぶりに若い方が対馬で、ぎらぎらした目で働きよる姿を見たときに、この人たちが本当の企業誘致の職員やなという思いがしました。

だから、仕入れ問題は、市長に中に入って、行政が中に入って、操業側が2隻おるやないですか、その皆さんの話と福岡魚市の、いわゆる価格を下回るようなことではなく、同等の金額でいけるような話になれば、あるいはその選別行為がどう価格の中で影響があるか、これは話合いだと思います。

市長、あなたにこの中に入っていただいて、企業誘致のために、100人の工場の従業員の稼働をひとつ腰を入れて頑張ってもらいたい、このような思いをします。御意見を頂戴したいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、議員がおっしゃられることは、私もよく理解をしております。

そういうことで、今、上対馬地区には中型まき網が2か続ございます。以前は、これ4か続ございました。そういうことで、この4か続のまき網が、今は全然比田勝港のほうには、水揚げが

されてないということで、できれば、この比田勝港のほうに水揚げをしていただければ、その加工業者のほうがかかなり、先ほどから議員おっしゃられるように、仕入れの関係で助かるいうようなことで、もし中型まき網の業者さんのほうが、比田勝港に水揚げをされるということであれば、選別機は市のほうで準備をしてもいいじゃないかと、それではやりますよということまでは、私申し上げたことがございます。

ただ、以前いろいろ問題があったのが、やはり中型まき網については、許可魚種がアジ、サバ、イワシということで、たまたま比田勝港に揚げたときに、指定魚種以外の魚が、やはりどうしても混獲で、混じるというようなことで、第三者から、ほかの魚も捕っているというようなことで、確か漁業調整事務所に投書をされたという話もお聞きいたしました。

そういうことがあって、それ以後は、島外の港に揚げているということをお聞きしております。まずそここのところの改善が、私必要ではないかなと思います。

それで、もしそういうことで御理解を頂けることがあれば、私は、先ほど申しましたように、選別機が必要でありますので、そこは市のほうで支援をしていっていいのかなと思っています。

そのことによって、ジャパンシーフーズさんみたいな、加工業者さんはわざわざこの対馬沖で捕れたアジ、サバを松浦とか、そういったところを介して、また逆輸入というような不効率な形で、対馬のほうに仕入れて、それを加工して、また出すということで、かなりの不効率になっておりますので、そこら辺の改善ができれば、対馬の加工業者さんは大変助かるだろうと思いますし、また、これからも加工業者として、対馬のほうに進出される業者さんも出てくるのではないかと考えております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） どうもありがとうございました。

私はその選別機のことを市が腰入れてとおっしゃった話、初めて聞きまして、それと大中というのは、なかなか難しいと思います。県の許可のアジ、サバ、イワシを基本としたまき網、これが今回の一つの対馬での、取りあえず立ち上げの話合いの対象かなと思うんですが、もう一つ、豊玉の地域商社も苦しんでおられます。

実態は、豊玉管内の定置網の業者さんと話し合って、その一部の方から仕入れるという、思うように集荷できないという、事業が伸びないという問題を見ました。担当にも聞いたらそうだという話でございました。

この地域商社というのは、もともと国境離島の事業の中で、谷川代議士がこの事業について、かなり力を入れて進められたような、私は耳にしたことがございます。

やはり仕入れの問題、共通して、地域商社そしてジャパンシーフーズ、これを解決して、売上げを伸ばして、そして決して福岡魚市に引けを取らんような協議、約束をして、話をさせること

が、今の一つの課題でありますし、本当に実現して、今の44名が工場拡大をするような言い方をしていました。そういうことがあれば、100名まではしたいという話していました。何もその人に合わせることは、一つの基本ではありませんけども、足元ある品が対馬のためになるというこの考え方に変えていかないと、今からの時代というのは、やっぱり経済行為において、利を伴うことを考えないと、外の長崎の当日は、鹿児島のごまアジをわざわざ鹿児島から運んで、そんなことをやっておりましたが、企業ですから、それを見込んで計算の合うことでやっておられるわけです。

一つ、上県、上対馬の若い人が、さらに60人超えて就業できる場所をつくるチャンスであると、私は思っています。

市長、この問題、時間をかけて十分、相手方と話し合いながら、事を進めていただきたい、かように思います。

それと、時間がもう少しであれなんですけど、沿岸漁業に対する行政の対策、非常に国の補助事業は、船のエンジンを全てやり替える、競争力強化型機器等導入緊急対策事業、これは大型船、あるいは小さな船、船外機までのエンジンを国が補助しますよ、補助率2分の1、1人最高事業対象2,000万、これは間違いございませんか。2,000万は。進めますよ。2,000万上限でしょう。

これを、いつまでこれは続くのかという話を聞いたら、今のところ、予算的な制限、あるいは何年までということの指示はないそうです。

ですから、この対馬に残られる漁業者の方々が、この事業でやはり船を、エンジンを。古くなった方々については、十分対応していくような指導を徹底していただきたい。

こんなこと、普通ないですよ。私はそう思います。市長、その辺、部長でもいいですが、このことに対する御意見を頂戴したいと思います。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 競争力強化型というのは、確か令和元年ぐらいから、去年まで、対馬市もずっとやっておりました。

ただし、壱岐や五島のほうは、競争力強化型は事業実施しなくて、油の直接補助をやっていたというような中から、漁協の組合長会の皆様がお見えになって、競争力強化型のほうは、必要な方々は大体済んだというようなことで、競争力強化型のほうから、燃油の直接補助のほうにシフトしていただけないかといったような要望がございましたので、対馬市として今現在は、競争力強化型はもう断念いたしまして、油の、燃油の直接補助のほうにシフトしているところでございます。

ちょっと私の足りないところは、部長のほうから、少し。



○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えします。

補助事業で、2分の1の事業は残っております。これまで、市で10%上乘せ補助していましたが、その分は燃油補助のほうに回しておりますが、国費の2分の1については、事業継続しております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 市長、エンジンの取替えは、その前やって、市が取った助成を燃油のほうの切替えになるという話は、担当言っていましたから、それは一致しておりますので（発言する者あり）、今日、関連質問で小島議員が、私の次に待っておりますので、時間の都合上、これで、市長前向きにひとつよろしく願いいたします。何遍も言いますが、しみじみそういうふうな思いになりました。

若い人たちがああいう職場で、実際に見たときに、やはりこの子たちがこの島にいつまでも残るということを、私は本当思いました。そういうふうな思いで、しっかり話合いの中をつくってほしいと思います。

私のほうは、以上で終わります。

○議長（初村 久藏君） 関連質問に入ります。

対政会、11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 11番、対政会の小島徳重でございます。

私のほうは、磯焼けの一因である食害魚の資源化に向けた、捕獲、流通、加工、販売の仕組みづくりに特化して質問をさせていただきます。

平成28年9月定例会での一般質問を皮切りに、これまで計5回にわたって、この問題について一般質問を行いました。

その間、漁業者、加工業者、行政が一体となった取組が見られるようになり、現在は、未利用魚等流通促進支援事業補助金ということで、取組が展開されております。そして、徐々に成果が上がっていると認識をしております。

しかし、事業はまだ実証段階であり、現場で奮闘されている方々からは、課題も多いと聞いています。流通、加工、販売のネットワークづくりを、もっと強力に進めるべきではないかと思えます。市長のお考えをお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 食害魚の資源化についてでございますけども、海水温の上昇によりまして、魚の活動が活発化することで、食害に対して耐性の弱い種類が衰退、消失し、耐性の強い